

令和5年度備中保健所運営協議会 議事録要約

日時：令和5年10月12日（木）

14：15～16：00

場所：備中保健所2階会第1～3会議室

1 開会

2 あいさつ

3 会長選任

会 長：片岡 聡一 委員（総社市長）

副会長：猪木 篤弘 委員（笠岡医師会長）

小田 健司 委員（井原医師会長）

4 議事

○事務局から資料を用いて説明

1) 備中保健所の概況

2) 管内の概要

3) 備中保健所の主な施策

4) 施策の実施状況

5) 備中保健所における新型コロナウイルス感染症の対応

6) 意見交換

<発言概要>

○委員 コロナ対策につきましては、保健所にはとてもお世話になった。クラスターになるのは、高齢者施設が半分以上を占めている。虚弱者が入っているので、感染対策が非常にやりにくいものがあるが、今後もぜひお願いしたい。今後、OCITは、当面続けていただけるということによろしいか。

○事務局 OCITは岡山県の独自の取組で、我々としても全国に誇れる大変よい仕組みが出来たと思っている。皆様方に大変お役立ていただき、お声がけもいただき大変感謝している。OCITは今年度中は続く予定。この取組を今後どのように活かしていくのかというのは、来年度以降、岡山県の組織全体の中で検討中である。

○委員 地域医療構想で、高度急性期から慢性期までの病床数があるが、病気になる人は、介護施設に入っている人がなりやすいので、今後予想される人口の変化に比べて、医療保険のベッドの数だけ言っても仕方がないのではないか。現実的に、すでに中小病院でも、相当ベッド量が空いている。

今後、地域医療構想というキャッチフレーズだけでなく、地域医療介護構想、保健も含めて、ベッド数に介護保険の中のベッド数も入れておかないと、上手く判断がつかなくなると思う。予想以上に医療保険のベッド数が空いてきてい

る。全国的だと思うがどのように考えておられるか。

○事務局 地域医療構想というのは、今回資料で現況および推計の比較というものを出しているが、一定の仮定の元に数字をはじいたものになっている。国は2025年をターゲットイヤーにしており、今回の医療計画の見直しでは触らないという方針が出ておりますので、この考え方で一応お示ししておきたい。

病床区分ごとの既存病床数の数があるが、これは医療機関の自己認識で報告いただいた数である。介護保険事業計画は市町村にあって、県側はそれをサポートする、介護保険事業支援計画を作っている。医療と介護一連で地域医療介護構想が必要ということは、我々も認識している。制度としていかに接合していくのか、本当に難しい。

一定の検討会もしているし、話し合いもしているが、実際に行政が許認可などもかかってくると、中央でも折り合いがつかないことが多分にある。

経営判断の中で、それぞれの事業体に適切にお願いする、整合性のある数字をいかに示すか難しい。

○委員 現状認識というのは、一年一年立ち止まりながら、見ていく必要があると思う。許される範囲の中で、フレキシブルに対応出来るようにしてもらいたい。

また、今一度、コロナに対する今の体制・考え方について、もう少し市民に知らしめる必要があるのではないか。ワクチンについても、支持率を失っている感じがあり、ワクチン無用論が出来てきている。これから、どういうふうにも収束・処理していくのかというのは、自治体も明確にメッセージを出していく必要があると思う。

○委員 新型コロナについては、5類になっているが、今後また違う株あるいは違うウイルス、もしかしたら、新型インフルエンザみたいなものも、入ってくるかもしれない。我々は常に共存していかないといけない。

今後考えられる、IHEAT といった応援の登録者の活用であるとか、今後パンデミックが起った時に、どのような形で、対応・体制を作っていくのかお聞きしたい。他県では、疫学調査に市町村の保健師さんも応援に来られたという実態がある。

○事務局 現場としては、市町村の保健師さんに助けていただきたいとか、IHEAT が活用出来ないかというのは思っていたが、なかなか県として、そこまでの制度の準備が出来なかったもので、この度は力添えは得られなかった。しかし、市町の保健師さんには自宅療養している患者さんの子ども、妊婦の支援など保健所と連携しながら、対応してくれたりバックアップは大変大きかった。現状では、今後、次の新興感染症の計画の中には、IHEAT のことなどが入ってくるのではないかと思っている。

○事務局 今回のコロナの反省を次に活かすのは大きな課題である。IHEAT の仕組みなど、県庁レベルで今後に向けての体制整備・知恵をしばって、国や県と検討してい

る。今回の経験を生かして県を挙げて体制強化を進めている。

- 委員 熱剤や咳止めの薬がない状態になっている。インフルエンザが流行るのが確実と言われており、カロナールやロキソニンが不足してくるが不足を解消する目途が立っていない。
- 委員 地方から国へ挙げていくのは大事なテーマ。医師会の方でやっていただくなり、県は県で考え方もってやってもらったらい。
- 事務局 地域のご要望というのは、県としては中立的な立場であり、どこまで経営努力していただけるのかということは行政では判断出来ない。
- 委員 資料の中の事業概要報告書の中で、歯科関係のことが数行あるだけで、それは我々歯科医師の力不足であると思う。残念なことである。
- 8020 運動について書いてあるが、80 歳で 20 本歯を残せば、好きなものを好きなように食べて、健康で長生きが出来るという意味合いで、30 年ぐらい前に始まった事業。当初は 20 本歯が残っていた人が 10%いなかった。それが、今、80 歳で 20 本ある人は 50%を超えた。30 年前は平均寿命が 80 歳過ぎだったと思うが、今、女性は 87 歳ぐらい。歯が残っている人が多くなったことによって、健康寿命が延びており、我々の歯科医師の努力も充分手助けが出来ていると思っている。歯科医師会の中では、50%を超えたので、当初の目標は達成できたと言われている。
- 備中保健所管内で歯周病検診はどの程度行われているのか。妊婦検診はどの程度行われているのか。わかる範囲で教えてください。
- 事務局 歯のことは大事で、市内とか愛育委員などと地域の方にオーラルフレイルの普及を進めたりして、健康寿命を延ばそうと活動をしている。
- 手元に具体的な資料を持ってきていないので、はっきりしたことが言えないが、備中保健所管内は歯周病・歯科検診は浅口市以外で実施している。受診率は 1 桁から 2 桁の低いところで、妊婦の歯科検診については、各市町で行われている。歯科検診が出来ないところは、保健指導という形で行っている。